

情報教育受講者の web 利用動向

一橋大学 大学教育研究開発センター 助手 辻村とも子

E-mail: cc00620@srv.cc.hit-u.ac.jp

一橋大学大学院 社会学研究科 教授 中嶋浩一 (一般教養 情報科学等 担当)

概要

一橋大学社会学部・地学研究室では、研究室で自前のサーバの運用を続けており、これを講義での連絡通知や課題提示、参考資料の提示などに利用している。自前のサーバのメリットとして、access log の解析が可能であるということがあるので、これを利用して、講義の受講者のアクセス動向調査を行った。講義は昨年度の本研究会で報告した本学の「情報リテラシー」で、2クラスを対象、受講者数は各 60 名計 120 名、また本稿作成時点での講義数は 6～7 回、経過日数は 51 日であるが、この間のアクセス動向として、1) 講義時間内でのアクセス数は出席者 1 人あたり 2～5 回、2) 講義時間以外でのアクセス数は 1 日平均で 24 回程度、などがわかった。また、講義で使用する教科書を章ごとに分割して pdf 形式で公開したところ、5 日間で 9 名程度のアクセスがあった。これらの状況から、web を利用して自学自習を促す教育方針は平常ではあまり実効を上げていないことが伺われる。

本研究の背景

本研究室では、インターネットでの web の利用が始まったところから長年にわたって web サーバを運用してきた。しかし近年になってセキュリティの問題が増大し、自前のサーバを維持することが困難となりつつある。他方でプロバイダ提供のサーバが普及しつつあり、近い将来は、教材提示などのサーバはこれらに移行する趨勢であると考えられる。

しかしこれらのアウトソーシングのサーバの場合、通常はアクセスログなどは公開されず、web ページがどのように利用されているかを調べることができない。これは、web ページを利用して自学自習を促すような教育の場合、大きな不都合となると考えられる。専用の学習ソフト (例、本学では“WebClass”を使用) を用いれば学習記録を調査することは可能であるが、現状ではコンテンツの提供などに困難があり、また利用状況調査にも限界がある。

本研究室は、現状ではファイアウォールなどを工夫して最大限のセキュリティを維持しているが、近い将来はやはりアウトソーシングに移行せざるを得ない状況にあると考えられる。そこで、自前のサーバによりアクセスログの検査が可能である間に、学習者のアクセス動向を調査しておくことを考え、本研究を企画した。

講義等の実施状況

調査の対象とした講義は、昨年度の PC カンファレンスで紹介した、一橋大学の「情報リテラシー」という科目である。これは「受講者がインターネット世界に向かって自分自身を発信できるようになること」を指導目標としており、このためにもインターネットを多用した講義内容・教材提供を心がけている。

コンテンツは、地学研究室のサーバ <http://chigaku.higashi.hit-u.ac.jp> に掲載し、学外の自宅などからもアクセスが可能となっている。ただし、利用実態の調査のために、教材・連絡ページなどは ID とパスワードを必要とする設定となっている。講義内容は pdf 形式の教科書としてまとめられており、ID、パスワードでアク

セスして見られるようになっている。また講義の目標としての、提出すべき7つの課題についても、講義のはじめからすべて掲示してある。7つの課題としては、電子メールの送信、ワープロ文書の作成、表計算ソフトによる統計解析、プレゼンテーションの作成、各自のホームページの作成と発信、JavaScriptのプログラミング、TeX文書の作成、などがあり、いずれも各自の創意工夫とインターネットを意識させる課題となっている。また、課題の提出は、前述の“WebClass”を利用している。

講義は週1回のもので2クラス実施されており、それぞれ定員60名、計120名が受講している。そしてこの2クラスに対し、今回の調査を意識して「異なる指導形態」を適用している。具体的には、1つのクラスは教科書の記述に忠実に講義を進行させ、他のクラスは教科書は自学自習を基本としてあまり講義では用いない、という方法である。

これまでのアクセス動向

冒頭の「概要」でも述べたように、本稿作成時点までの講義数は各クラス6～7回、また経過日数は51日である。そしてこの間で見られたアクセス動向として、次のような点が挙げられる：

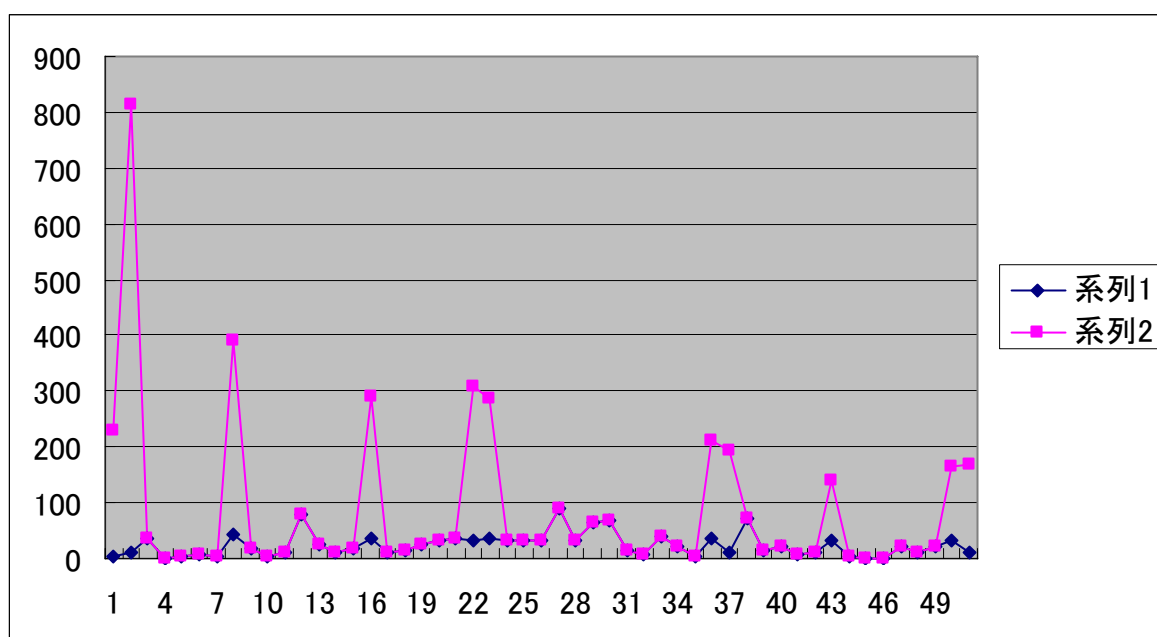
1) 講義時間内でのアクセス数は約100回～300回（これは出席者1人あたり2～5回に相当）で、これはあまり多いとは言えないが、教員が別の画面で教材を提示しながら講義しているのでそれほど必要ではない、ということが言える。

2) 講義時間以外でのアクセス数は、51日間で平均すると、1日平均で24回程度であった。さらにこれを個人ごとにまとめてみると、1日平均でわずか2～3人しかアクセスしていないことになる。

3) 講義開始から1ヶ月間は講義内でのみ提示していた「教科書」を、6月から、章ごとに分割してpdf形式で公開したところ、5日間で9名程度のアクセスがあった。

これらの状況から、これまでのデータでは、webを利用して自学自習を促す教育方針はあまり実効を上げていないことが言えると考えられる。

最終的な調査結果、あるいは学期末での利用状況、また異なる指導方針でのアクセスの差、などについては、PCカンファレンスにおいて詳細を報告する。



毎日のアクセス数（系列1は講義以外のアクセス数、系列2は全アクセス数）